園長と語ろう

― 幼稚園の思い出 ―

園長　家田　美里

先日、卒園児が母になりお母さん（おばあちゃん）と遊びに来てくれました。その時に幼稚園の頃の話しをしていたら、とても覚えていて驚きました。後で私も・・・と思い自分の幼稚園の事を思い出してみました。

ご存知の方もおられますが、私はむらさき幼稚園の卒園児です。その頃は大きなケガもなく、自ら発信する事もなく穏やかに過ごしていました。まだ自由保育ではなく、運動会では踊り、年長の生活発表会は寸劇を練習して披露していました。そんな三年間を過ごしていて楽しかった事は沢山あったと思いますが、ちょっと昔過ぎて思い出すのは難しいです。敬老お招き会でおばあちゃんが来てくれて嬉しかったとか、とてもクラスの人数が多かった時代で、一人ひとりの椅子をテーブルにして保育室で円になり昼食を食べていた事を何となく覚えています。その時に担任の先生が「今日は誰の隣で食べようかなー」と言いながら、椅子を持って子ども達の周りを回ってくれます。私は隣に座って欲しくてドキドキしていました。四十人一クラスという大所帯なのでなかなか隣には座ってもらえませんでした。いちご狩りも楽しかった・・・など沢山でてきますが、私の幼い頃はまだ体力もなく行事の前になると、緊張からかよく熱を出していました。運動会当日に復帰の為「南の島のハメハメハ大王」を踊るのに、友だちは自作の王冠で、私だけ先生が作ってくれたカッコいい王冠。そんなズルい事もありましたが、その時は「やったー」と心の中で喜んでいました。

そんな私が今でもはっきりと覚えている事が二つあります。一つ目は三歳児の生活発表会で「くだものやさん」をしました。みんなで三種類の果物のお面をつけ、りんご・みかん・バナナになりました。わたしは手の平が黄色くなる程みかんが大好きだったので、どうしてもみかんになりたかったのに「みさとちゃんはバナナね」と言われて嫌とは言えず渋々バナナになりました。

もう一つは五歳児の生活発表会です。「白雪姫」の寸劇をやる事になり（担任が決めました）、みんなで配役を決めました。私は何人かいる白雪姫の一人になり、それはもう嬉しくて当日が楽しみで仕方ありませんでした。が、案の定熱が出てきて二日くらい前に復活。それでも楽しみにして園へ行くと「みさとちゃん、ずっとお休みしてたから台詞の長い白雪姫より、台詞の短い悪い女王にしておいたよ」と言われました。「があーん」担任の先生は良かれと思って変えてくれたのだろうと、今ではわかります。その時は「しらゆきひめがやりたい」という気持ちがあったのに、その気持ちを伝えられず悪い女王をやりました。「かがみよかがみ、せかいでいちばんうつくしいのはだれ？」「あーくやしい」とこの二台詞でした。悔しいのは自分が白雪姫になれなかった事なのに・・・。と思いが伝えられなかった事はよく覚えているものです。あの時、担任の先生に言えていたら、みんなに言えていたらこの記憶はありません。今の子ども達を見ていると、私が出来なかった事が出来ていて羨ましいです。五歳児のお泊まり保育のメニュー決めや、うんどうかいの種目決めでも全員でとことん話し合っています。みんなが自分の思いを出し合い、譲って譲られて。その時に悲しい思いをする事があっても最後は納得しているはず・・・。家に帰って話しを聞いてもらって、また友だちにその話しを聞いてもらって。何も言えなかった私には本当に羨ましくて仕方ありません。こんなに時が経っても根に持つ(!?)事もなく成長していくのでしょう。自分の思いを言葉にして伝える事の難しさや大切さを再確認しました。遊びに来たあの卒園児も楽しかった事や嫌だった事を話してくれました。

ちなみに私が幼稚園で好きだった事の一つにバス通園があります。添乗員さんが「今日はどっちがいい？」と聞いてくれて「がたごとみちー」と言うと、運転手さんがまだ舗装されてない外環状線を通ってくれました。砂利道なのでガタゴト揺れて、子どもの私はそのガタゴトが好きでした。昔はそんな事も出来たなと思い出し、そして今のみんなはどんな事を覚えているのだろうと思いました。何年後かに話しにきてね。